

世代がつながる 住区がつながる 未来へつながる

高の原駅前広場リニューアル

住民説明会資料

奈良市
都市整備部 都市政策課

次 第

開会挨拶

広場リニューアル内容の説明

- 1.背景と目的
- 2.再整備プラン
- 3.これからの駅前広場の運営方法

質疑応答

背景1

平城・相楽ニュータウンパワーアップビジョン検討会議※1
によるアンケート調査

第22 高齢・高齢者から高齢者をおおむね10代（11才以上）

第18 あなたがごまのまちにしたいと思う施設について、その理由とともに自由に記入ください。

図8 高の原駅前の、次のような施設にどの程度の頻度で訪ねられますか。（頻度について各項目を

平城・相楽ニュータウンのまちづくり・まち育てに向けたアンケート調査

図1 居住する性別はどちらですか。（1才以上）

1. 男性	2. 女性	3. 未定	4. 定数	5. 住居数	6. 割合
7. 住居数	8. 割合	9. その他			

図2 高の原駅の駅前広場のまの名称として、まの駅名から「平城・相楽ニュータウン」と呼ばれています。あなたが、この名称をどう思いますか。（1才以上）

1. 知っている 2. 知らない

図3 駅の駅前にお住まいの知り合いの人から、あなたの居住環境を尋ねられた場合、あなたはどのような回答を返すと思いますか。（1才以上）

1. 平城・相楽ニュータウン 2. 高の原 3. 高の原の住人 4. その他

図4 主な駅前の施設（1才以上）

1. 近所の公園、歩行者専用道路、図書館、保育園などの施設に行く

2. 近所のカフェやバー、レストラン、美容室、書店、雑貨店などに行く

3. 駅前の駅前の商業施設などに行く

4. 電車や自転車を使って高の原以外の周辺の商業施設やレジャー施設に行く

5. 電車や自転車を使って大原・京奈・奈良の駅へ行く

6. その他

7. ほとんど外出しない

図5 ご近所で、次のような特徴がある人はいませんか。（あてはまるものをすべて）

1. あまねいさつをする人 2. 立ち話をする人 3. 物のやりとりをする人

4. 顔の表情が一つしかない人 5. 顔の表情が一つしかない人

R2.11「平城・相楽ニュータウンのまちづくり・まち育てに向けたアンケート調査」集計データより

未来に向けた取り組みが必要
令和4年から平城・相楽ニュータウンの活性化について検討

※1：関西文化学術研究都市推進機構が事務局となり、奈良市、木津川市、精華町、UR都市機構、関西文化学術研究都市センターが参画した会議

背景2



まちびらき50年を契機に
地域住民が主導する取り組みが各地で活性化

住民と企業が連携し、
課題の一部を解消する希望に

取り組みが継続するためのサポートを検討

高の原の真ん中にある高の原駅前広場を
より使いやすく、居心地の良い空間へ
再整備計画に着手

プロジェクトチーム会議の立ち上げ

計画に地域住民やまちづくりに取り組む方の意見を取り入れるため、各住区からの代表者、まちづくりに取り組む関西文化学術研究都市センター、奈良市、木津川市、精華町の職員が参画

20年後の未来の高の原の姿

高の原で育った人が 帰ってきたくなる
高の原らしいまち

未来のまちの姿(PT会議第1回)

高の原らしさにつながり、未来の高の原で実現したいまちの姿を議論・整理した際のキーワード。

自然豊か	閑静	安全	アクセス良好	おうち感	解放感	地域の催し物充実
お年寄りが元気	子どもも元気	子育て世代	多世代の関わり	多様な人々の交流	学びの場	歩きやすい
日常生活が便利	みんなで子育て	集まれる場所	若者が集う	安らげる場所	笑顔で溢れる	環境に配慮した交通

育てていくモノ・コト

これらを踏まえ、駅前広場で取り組む内容を、計9回のプロジェクトチーム会議で議論してきました。

高の原らしさにつながる駅前広場での風景や取り組みのキーワード

住区の境を越え、友人・仲間・知り合いをつくる	知り合い以外のいろんな人と、育児の悩みを共有する	住区を越えた地域合同のイベントで盛り上がる	学生と住民が協働して取り組みを企画・検討する
友人・仲間とおしゃべりを楽しむ	高の原らしい「まちの景色」を楽しむ	1人でほっと一息つく	1人で読書を楽しむ
1人またはグループで仕事・勉強する	こどもから大人まで、興味・関心を深める学びを得る	エリア内を不便なく移動できる	安心してこどもを預けられる

駅前広場再整備において重要視

住区の境を越えて、知人・友人・仲間の
“つながり”をつくれる駅前広場

駅前広場再整備プラン

- 検討項目
- エリアごとの使い方⇒ゾーニング
 - 各エリアのコンセプト
 - 機能の配置
 - 整備後の運営方法

検証

社会実験を開催し、
未来の駅前広場での
過ごし方を体感
いただきました。



反映



再整備計画イメージパース



再整備計画の詳しい説明は、裏面です→

■高の原駅前再整備計画の概要

【駅前広場のデザインコンセプト】

多世代がつながる「高の原らしさ」と暮らしの魅力の発信拠点

【ランドスケーププラン】

- すずらん館前：まちのリビング**
普段づかいは、住民（特に子育て世代・高齢者）の憩いの場
ときには、イベント等を通じて、多世代の交流を深める場
- イオンモール前：まちのエントランス**
駅・ロータリーやイオンモールなどの多様な人の往来の玄関口として、高の原のまちと出会い、まちの魅力を発信する場
- 北部会館・ロータリー前：まちの庭**
駅前でありながら、人通りから外れて、ほっと一息がつける場所、一人で、もしくは仲間と過ごし、ときには新たな出会いもある場



■リザーブゾーンの活用

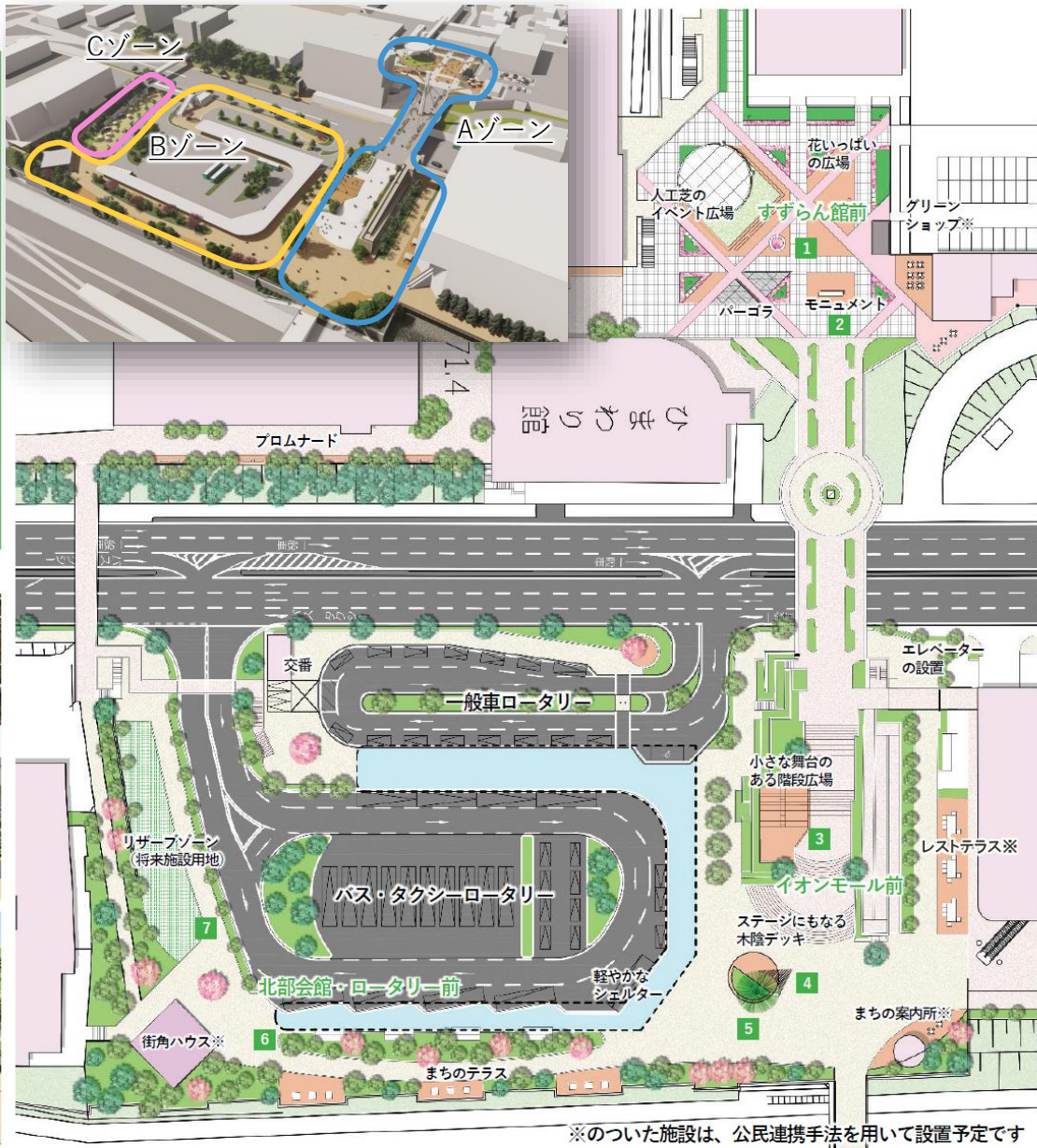
「高の原で育った人が帰ってきたくなるまち」
の実現のため活用を検討
今後、事業者へヒアリングなどを実施

奈良市や地域住民とともに、「未来の高の原の姿」
の実現に向けて、連携いただける事業者を選定

地域に根差した事業を展開

【デザイン方針】

- 方針1 “らしさ”のある緑があふれ、緑を親しむことのできるデザイン
- 方針2 居心地がよく、まちを眺め、感じられるデザイン
- 方針3 多様なシーン、アクティビティが生まれるデザイン



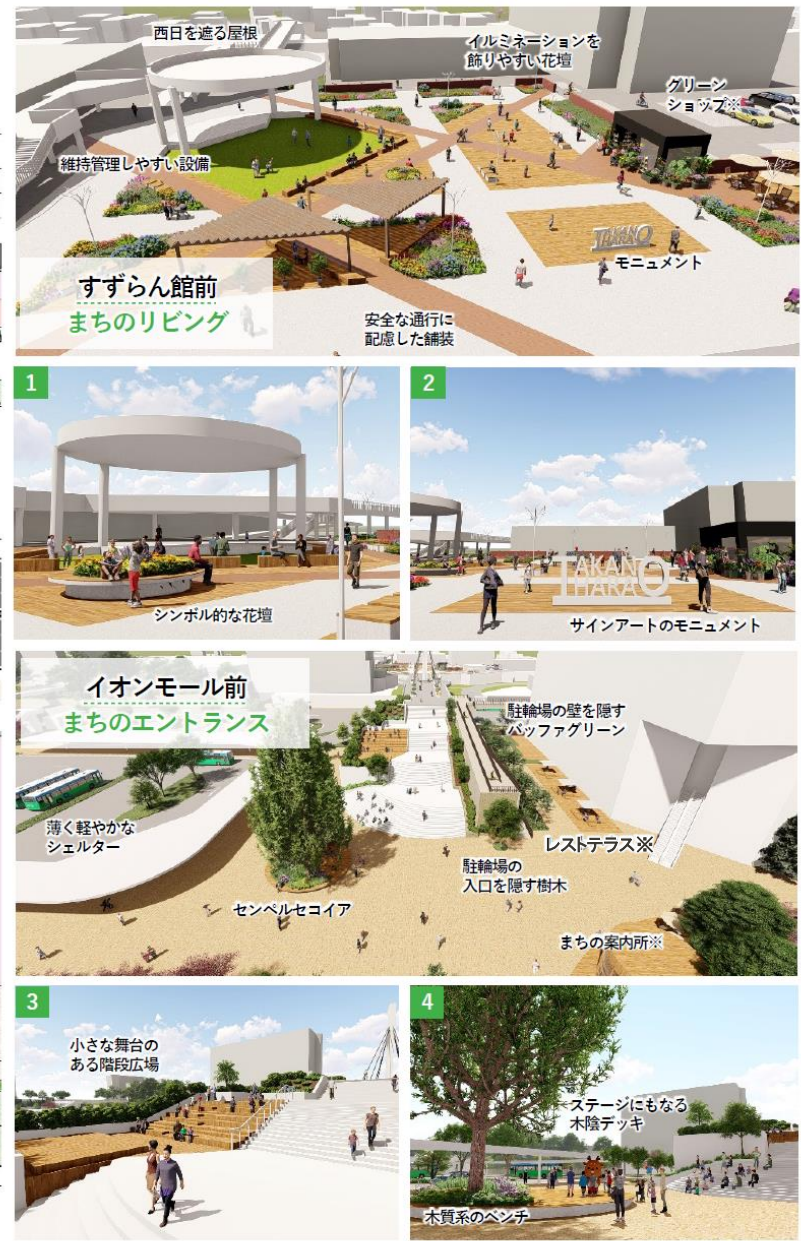
■これからの駅前広場の運営方法

地域の利害関係者が協力し、
地域の魅力や価値を高めるために駅前広場を活用

エリアマネジメント（民間事業者による広場の管理）		
自主イベント開催	利益を 原資に	広場の植栽管理
スペース貸し		日常清掃
賑わい施設運営		ベンチの設置・管理
情報発信スペース		

【ランドスケーププランの考え方】

- ① 場所の個性を活かし、つくる
- ② 隣接する建物等と一体となった使い方をデザインする
- ③ 公民が連携した運営の仕組みをつくる



■説明動画はこちらから、 ▼ご覧いただけます▼



◀QRコードを読み込み
再生ボタンを押してください

問合せ先 奈良市 都市整備部 都市政策課
Email : toshiseisaku@city.nara.lg.jp